

令和 6 年度 第 2 回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

1 日 時 令和 7 年 2 月 26 日（水）午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分

2 場 所 たけまるホール 研修室 6

3 出席者

（委 員）大谷裕美子委員（議長）・滝澤治生委員（副議長）・
浦林直子委員・岡本純子委員・上武敏一委員・坂本剛伸委員・清水泰之委員・
土本みさ子委員・松木厚子委員・連靖和委員
（事 務 局）坂谷生涯学習部長・井川生涯学習課長・綾野生涯学習課専門官・
福田生涯学習課主幹生涯学習課生涯学習係長兼務・西野図書館長・
中川図書館南分館長・入井駅前図書室長・西スポーツ振興課長・平田主査・
金田

（欠席者）岩本博子委員・大野與志子委員・岡島保弘委員・白井一三委員

（会議の公開・非公開）公開

（傍聴者）なし

4 議事内容

（1）令和 7 年度 生駒市社会教育基本方針及び重点目標（案）について

（2）その他

（1）令和 7 年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標（案）について

■「令和 7 年度社会教育基本方針及び重点目標（案）」について事務局より説明。

令和 6 年度に策定された第 3 次生駒市教育大綱の基本方針に基づく重点目標と、具体的な
事業内容（予定）について説明。

■「令和 7 年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標（案）」についての質問・意見

浦林委員 新しく多様な働き方を考える講座というのが高校生対象で起業や副業を自らの
進路について考える機会として、このような講座を今度実施されるということなんで
すけれども、動機というか、具体的な講座の内容、あるいは希望する人だけがするの
か、いろんな高校に出張していくのかという形態についても少し教えてください。

井川生涯学習課長 今社会では企業間競争の激化ですとか終身雇用の崩壊といったように

先行きの不透明性が高い時代になってきていて、多くのこどもや若者が将来に対して漠然とした不安を感じているという中、厚生労働省の調査では新卒入社後 3 年以内の離職率がもう 40%に迫るという風な状況で、若者の早期退職というのも増加しているという中でその早いうちから自分のキャリアについて学ぶ、学び考える機会が少ないことに問題意識を持ちまして、大学生になると社会教育は大学の中でもそのキャリアセンターとかもあります、それよりももう一つ前の段階で高校生の前半ぐらいの方々をターゲットに多様なキャリア、今でしたら企業に就職するだけじゃなくて自ら起業するとか、いろんな働き方が出てきてる中で、自分の進路と自分が将来どうなりたのかっていう風なことを学んでいくような、いろんな働き方をされてる方のお話を聞いてもらう機会とか、そういうことを考えており、希望する方に参加をしていただこうと考えております。

そしてキックオフみたいな形で保護者の方も対象とした講演会を開催して、そこからまた関心を高めていこうというふうに思っているところです。

岡本委員 今思っているのが、公立の幼稚園がすごく人数の減少が激しいのに対して、アピールするような何かの動きがあってもいいのかなと思います。

上武委員 人手不足で、外国人留学生を雇っている経営者も増えてきており、彼らは日本人より優秀と聞くとときもある。少子化で、生駒市で去年も今年も 600 人台ということで非常にこどもも減ってきてます。確実に 18 年後にはその子らが社会人になるときには、もっと人が少ない状況になっておりますので、その子らが外国人留学生の雇用者などと戦っていけないんじゃないかと。それを何か改善するようなことにチャレンジできないのかなと思ったりもしています。

坂本委員 こどもたちをどのような大人にしていくのかについて、なかなか見えないんですよね。多様性が逃げ道となってしまうのは。生駒市だけではないんですけども何か不明確になってるんじゃないかなという感じがしました。それで、この具体的な事業内容で、いろいろ書かれてるんですけども、考え方の確認をしたいです。
特にスポーツのトップアスリート連携事業、これはずっとされていて非常にいいことだと思うんですけども、他の事業も含めて、生駒市内だけで完結しようとしているのか、もしくは、県と連携をとるとか、他自治体と連携を取るとか、そういう考えが入って

るのかどうか。それともう一点が、継続してその幅を広げていく、ブラッシュアップしていくという、そういったものの概念というものが、ここから読み取りにくいなという感じがしました。

井川生涯学習課長　　こどもたちをどのような大人にしていくのか見えづらいというところなんですけれども、この生駒市教育大綱に記載させていただいているところです。基本方針と重点目標にその辺りの記述がないというところで大変申し訳なかったんですけれども、その考え方に基づいてこの社会教育基本方針を作っているというところではご理解いただけたらと思っています。

西スポーツ振興課長　　この事業はトップアスリートに来ていただく非常に人気のある事業で、生駒市内の方々を対象にさせていただいています。事業によっては他の自治体とも連携は必要かと思いますが、現時点では市内で完結はしています。

井川生涯学習課長　　生涯学習の分野での他の自治体、県の連携と言いますと、基本方針には書いていませんが、3月にこどもたちを対象としてJNOという反田恭平さんが率いる奈良のクラシック楽団のコンサートを3月10日に開催する予定です。
先ほどのもう一つのご意見の継続性のところですけども、これにつきましてはやったことをどう評価していくのかを考えた上で、次回の会議のときにご説明をさせていただけたらと思います。

連委員　　今、子ども会の会長をしているんですけども、現在子ども会が衰退していつい実態があるんですね。どういうふうな手立てをしたらいいかという、その事業内容は、やっぱりきちっとこの中で展開していくのが僕は本来なんじゃないかなと思っています。社会教育委員だけでなく自治会とかも、子ども会をどうしようかと具体的に議論をしながら進め、こどもが生駒市の担い手だと思うので、どう育てていくんだということをもっと真剣になって考えていくべきだと私は思っております。

井川生涯学習課長　　子ども会の支援につきましても、市子連さんを通じて、支援をさせていただいているんですけど、こどもたちが地域の中で学んだり交流したりする機会をどう作っていくのかを考えていけないと思います。また市子連さんとも連携しながら考えていきたいです。

松木委員　　多様な働き方を考える講座は高校生が対象とおっしゃってたんですけど、できたら

大学生にもそういう話を聞かせていただいたらと思います。

さきほど、幼稚園のこどもの人数が減ってるってということで、市の PTA の役員会議でも幼稚園部会でも困っておられる。こどもたちのために一生懸命されてるんですけども、お金の使い道も制約があり、もう少し考えて欲しいということもおっしゃっていました。人数が少なくなると、閉園にするか、こども園化にするかっていうすごく両極端な話をされて、それもすごく困って、もう少し寄り添って欲しいっていうことはおっしゃってました。

土本委員 来年度以降、中学校ではクラブがなくなるような話を聞いてますが、中学生が外のクラブに入って体育施設を使うようになると、一般の人が予約をして使える場所が少なくなってくるので、ちょっと心配してるんですけども。

西スポーツ振興課長 現在、先ずは休日の部活動の地域移行を進めており、平日の移行はその後と考えています。移行後も学校施設を使っていくことになりますが、現在も部活動が使われている時間帯を基本的に活用していくことになるかと思います。場合によっては、現在地域の方々が使われている時間帯等も地域移行後のクラブ活動が入っていく可能性はあります。今後は、今まで使われていなかったような時間帯等も学校体育施設開放事業の見直しの中で検討もさせていただきますので、地域の方々が使える時間帯が広がる部分もあるかと思います。いずれにしても丁寧に進めていきたいとは考えています。

清水委員 社会教育重点目標は目標ですから、こういう言葉でこういう形式でいいんだと思うんですけども、これは誰のためにあるのかっていったらやっぱり生駒市民みんなのためなので、どれだけ浸透しているのか。「主体的に学ぶ」は、主体的って一体なんだらうと。

さきほどからの意見にあるように、どんな子を育てるのかということについて、やはり学校教育と社会教育でしっかりと連携していく必要があるんじゃないか。このことが今の一番の課題と違うかなと思っています。市民の目線での PR がこれから必要になっていくんじゃないかと。これがちょっと感じられないなっていうような感想ですけど、こうやって出す必要があるのであればこれがベストかなと思ってます。

滝澤副議長 「あらゆる市民」が、このあらゆるという言葉がついただけで責任と重み増す

ので大変だなという引き締まる思いですが、「生きづらさを抱える云々」というところ
と、「子ども・若者総合相談窓口」というユースネットいこまさんのところです。ご存知
のように不登校のこどもがすごく増えています。学校が訪問したり、相談窓口に足を
運べるこどもは何とか繋がりを持っていけると思うんですが、接点を取りにくいこど
もについては、できましたらそのユースネットのお力もお借りして、アウトリーチ、いわ
ゆる家庭訪問について何とかその辺の予算枠を充実していただいて、お力を貸して
もらえたら。あらゆる市民という限りは何とか力を入れていただきたいという思いが
あります。

井川生涯学習課長 ユースネットいこまでもアウトリーチはやっておりまし、福祉政策課が
担当しているひきこもり支援事業でも専門職のアウトリーチをさせていただいていま
す。学校との連携は日頃からもさせていただいてますが、もっと連携をして、届かな
いところ、当事者に何とかつながるようにしていきたいと思います。

大谷議長 連携を取りながら民生委員さんも関わっていただいたりすることもいっぱいあると
思うので、進めていっていただきたいと思います。ここからは挙手していただいて、ご
意見、ご質問をお願いしようかと思います。どなたかどうぞ。

清水委員 講習とかはないんですか。社会教育のそういう団体にチームなり何か登録された
指導者に対する教育大綱も含めた研修をしてくださってるのかどうか。

西スポーツ振興課長 学校部活動を地域移行しますと、地域の方が指導者として活躍して
いただくことになります。市としましては、市スポーツ協会など、様々な組織と連携し
ながら研修会は今後していく予定です。

土本委員 「学校図書館修理ボランティア養成」って書いてあるんですけども、いこま寿大
学の人が指導の免許というか、そういうのを持っておられるんですか。

西野図書館長 寿大学の方が直接というわけではなく図書館の方で、別に修理ボランティ
アのグループがございます。寿大学の方では、いろいろ選択して受講できる実務講
習会の中の 1 教科に図書の修理というものをに入れていただきまして、毎年 10 人か
ら 15 人ぐらいの方を 2 回ぐらいご教授しまして、その後、図書館に週に 1 回は通っ
ていただいてスキルをマスターされた方が、近くの学校図書館に月に 2 回ぐらいず

つ行っていただくという流れにさせていただいています。

土本委員 寿大学への指導じゃなくて一般の方に指導する講習会みたいのではないんですか。

西野図書館長 タイミングが合えばしたいとは思っています。最近図書館で活動したいと漠然とした思いを持ってこられる方もいらっしゃいますので、受け皿を考えていかないととは思っております。

土本委員 一般公募でそういう講習会をしていただけたらありがたいと思いますのでよろしくをお願いします。

坂本委員 社会教育っていうのは、いつでも、この教育が受けられますよという概念があると私は思っています。こどもたちが生まれてから、将来どのような大人になっていくか、そのキャリアアップアップ、縦の成長のためにツールがありますよっていうのが、社会教育という概念だと思います。学校教育と社会教育に分けて、社会教育の方で話をしていこうとしているんですが、その中でその辺のビジョンが見えにくいなと。もう一つ、事業ごとに実施要項とかあるんですね。それはホームページで見れるんですか。

井川生涯学習課長 教育大綱のアクションプランというのがありまして、社会教育の取組についてそれぞれ概要を上げさせてもらっています。令和7年度は審議中なので上がっていませんが、令和6年度分を見ていただけたら。

浦林委員 教育大綱が最終的にこういったところを目指しているんだろうというところを確認しながらこの会議で見させていただいているんですけど、社会教育の大きな目標がしっかりと表れているなあと拝見しているところです。そういう意味でいうとたくさんの基本方針ができ、具体的な事業内容もできている。ほんとうにいいものを私たちがかわりながらこうやってすすめていただいているということは1つあるのと同時に、私たちがちゃんと責務をはたせるような社会や教育を通じて実現するような視点というのが施策を通じて市民に伝わるのか、あるいは私自身の行動を通じてちゃんと社会に訴えかけているかという部分で足りているのかなあということも含めて今日は事業内容を見ていたんですね。

先程、高校生を対象とした「多様な働き方を考える講座」にわたしが注目しているの

は、働き方という言い方、仕事を考えるではなくて働き方を考える講座という言い方をしてくださっている事です。若者たちは今、就職したらすぐ辞めるんですよ。あんなにいっぱいキャリア教育を受けてカウンセラーに相談して選んだ就職先でさえ、3年以内、いや1年以内に辞めている。仕事として考える時には何を仕事にするか、何で稼ぐかということが一番の視点になるんだろうなと思うんですけど、私は仕事と働くっていうのは違うと思うんです。働き方、働くって和語ですよ。もともと「はた(傍)」を「らく」にするからきて、それが「働く」という和語になったと思うんですが、そうであるとすれば自分の能力をいかして、社会に貢献するとか、人の為に働くというのはいったいどういうことなのかをちゃんと考えさせていくようなプログラムを提供して欲しいなと思っています。

井川生涯学習課長 単に職を得るためのキャリア教育はやる意味はないと思ってまして、何がしたいかというところに向き合うと先程申し上げたんですけど、そこにフォーカスを当てたいと思っています。

上武委員 今大学に行ってもキャリア教育をものすごくしているけど結局は大会社とかいい会社だけに流れて、出口戦略みたいな形でやられているので、ちょっと私から見たら違和感を持ちます。働くってどういうことか。職業には貴賤はないんです。世の中に認められているから お金をもらっていて、役に立っているから賃金をもらっているんですよというそういう根本的なところから、きっちりと教えていただきたいなと思っています。

清水委員 主体的の一つの例で、今木先生が、美作に民俗調査に行くと、こども達も大人も知らない人にあいさつしてくれるので、美作っていうのは挨拶をキーワードにきちんと社会教育をしているんだとすぐわかるとおっしゃったんです。

あいさつ運動をすすめて20年になりますけれど、この前地域グループ3つからあいさつ運動をしているという報告がありました。具体的な提案として、学校教育も社会教育もきちんとあいさつから始まってあいさつで終わりましたと指導者にも伝えてほしい。教育大綱の中に書いてあるじゃないですか、行動を通してってね。教育を始める前に必ずあいさつから始まってあいさつで終わりましたって、生駒市の運動として展開するのを提案します。

大谷議長　たくさんの貴重なご質問やご意見をいただきありがとうございました。今日の委員のみなさんからのご意見をもとに修正とか出てくるものもあると思うので、事務局の方でよろしく願いいたします。最初に説明があったようにこの基本方針と重点目標は定例の教育委員会で承認を得る必要があります。今後の予定をお願いします。

井川生涯学習課長　ありがとうございました。いただいたご意見やこちらからの修正の申し出をさせていただいた部分について修正案を作成し3月の定例の教育委員会に議案として提出させていただきます。教育委員会の会議の中でご意見をいただくこともございますので、本来でしたら委員の皆様にお集まりいただいて協議をいただく必要も出てくるのですが、またお集まりいただくのもなかなか大変かと思いますので、議長、副議長と事務局で内容を調整させていただくということです。すめさせていただきますと思いますが、ご了承いただけますでしょうか。ありがとうございます。

(2)その他

■事務連絡

- ・今年度の社会教育委員会議は今回が最終。令和7年度第1回の会議は7月頃に開催予定。

閉　会